人窓 PEOPLE

みなさんの活躍紹介します

数々の名馬を育成

会話する気持ちで馬と接する

社台ファーム 調教主任
正岡（まさおか） 稔（みのる） さん

愛媛県出身。調教主任として、牝馬（ひんば）（メス）の育成に携わる。30年にもおよぶ育成歴を持ち、桜花賞などを制したスターズオンアースをはじめ、多くの活躍馬に携わってきた。

――はじめに、お仕事紹介をお願いします。

デビューを目指してトレーニングしている牝馬（ひんば）を管理しています。その業務のひとつに、「馴致（じゅんち）」があります。これは、それまで外で遊んでいた馬を、人に乗られることが楽しいと思えるように導いていくことですね。人が乗ってかけあしができるよう、2週間ほどプログラムに沿って馴致を進めていきます。この馴致を経て、本格的なトレーニング（調教）が始まります。

――このお仕事に就いたのは、どんなきっかけからですか。

高校在学時、（愛媛）県外を中心に就職先を探していたときに、母が社台ファームの求人票を見つけてきたことがきっかけです。最初の仕事は馬の繁殖でしたが、それまで馬には触ったこともなくて、本当に牧場に来て初めて教わってという感じでした。

――当時と今とで、馬に対する印象はどう変化しましたか。

最初に接した時は怖かったですね。大きくて力も強い「動物」という認識でしたが、長く接するにつれ、ほとんど人間と一緒だというイメージに変わっていきました。一頭一頭、性格も違うし、痛かったら痛がるし。ただ、話すことはできないので、私たちがサインを見逃さず、そのサインをきっちりジャッジします。

馬はとても敏感で、厩舎（きゅうしゃ）全体の雰囲気が悪いと馬も察して委縮するし、群れで暮らす生き物とあってか、空気を読むんです。毎回怒ったり、そういう感情で接していると、不安定にもなります。馬と接する時は、会話する気持ちでというのが一番大事だと思います。

――正岡さんのお話から、馬への愛情を強く感じます。

馬は何度見ても、すごく眼がきれいで可愛い顔をしていて、心の癒しになりますよね。いざレースで走らせると、訓練された馬ほど期待に応えようと頑張ってくれるんです。人の言うことを聞かずにオーバーペースで走ると、最後に失速してしまいますから、ジョッキーの指示をしっかり我慢して聞ける馬が、最後に勝ちます。人間としっかり繋がっている馬ほど強く、そのためにはやはり馴致が大切じゃないかなと。

本来、馬は外で草を食べたい生き物なので、人を乗せて走るのは嫌なんです。ただ、うちの馬は競走馬ですから、走ってもらうために私たちがルールを教えますし、馬がそれに応えてくれたときは、「ありがとう」の気持ちを伝えています。もちろんしっかりトレーニングも積んで、その見極めと管理能力が一致すれば、いつかスターズオンアースを超える馬を育てられるはず。それを目標にして今、みんなで頑張っているところです。

第40回

先生、教えて!

CHITOSE CITY HOSPITAL
市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000 内線8138

秋冬に流行する消化器感染症について

市立千歳市民病院
小児科 主任医長 **伊東 広臨**

秋冬は気温の低下と乾燥によりウイルスが長く生存しやすく、消化器系のウイルス感染症も増加します。ウイルス性胃腸炎は、学校や保育施設、職場などで集団感染を起こすことがあり注意が必要です。代表的なウイルスには、ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルスなどがあります。

ノロウイルスは、最も多く見られるウイルス性胃腸炎の原因で、強い吐き気、嘔吐（おう）、下痢、腹痛などの症状が突然現れます。感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染するため、ドアノブや調理器具などを介した接触感染、集団食中毒の発生がたびたび報告されています。牡蠣（かき）などの二枚貝が原因となることがあり食品の十分な加熱も重要となります。

ロタウイルスは、乳幼児に多く見られる胃腸炎で、白っぽい水様性の下痢や嘔吐、発熱が特徴です。感染力が強く、保育施設などでの集団感染が起こりやすく、乳幼児では重症化することがあるためワクチン接種による予防が推奨されています。

サポウイルスは、ノロウイルスと似た症状を引き起こすウイルスで、近年検出例が増加しています。嘔吐や下痢、腹痛などが主な症状で、高齢者施設や医療機関での集団感染例も報告されています。ノロウイルスほどではないものの、感染力は強く、衛生管理が重要です。

これらのウイルスはすべて経口感染や接触感染が主な感染経路であり、手洗い・消毒・食品の衛生管理が予防の基本です。これらのウイルスに対してはアルコール消毒が無効なため、次亜塩素酸系などの消毒剤が必要となります。感染拡大を防ぐため、嘔吐物や排泄物の処理の際にはマスク・手袋を着用し、飛沫の拡散を防ぎ消毒を徹底することが重要です。汚染された衣類の消毒には、目立つ汚れを洗い落とした後、塩素系漂白剤に30～60分浸けるか、85℃以上の熱湯に1分以上浸けることが有効です。